



学校創立143周年

# 百年松

阿木名小中学校便り 令和4年7月19日発行

◇校訓「かしこく やさしく たくましく」

あ 明るく元気なあいさつができる子ども  
ぎ ぎりぎりまであきらめず努力する子ども  
な 仲よく笑顔いっぱいの子ども

～花いっぱい、元気いっぱい、笑顔あふれる阿木名っ子～



阿木名小中学校



## いよいよ夏休みです

校長 井上 泉

一学期が、まもなく終了します。新型コロナウイルス感染症も3年目に入るも、なかなか終息のめどが立たず夏休みに入ります。しかし子どもたちは、さまざまな学習や学校行事、部活動等に一生懸命取り組みました。

小学校では、2年ぶりに春の1日遠足が実施されました。ニコニコ笑顔の子どもたちに、とても癒やされました。残念ながら雨になりましたが、実施できたことは嬉しい1日でした。中学校では、2～3年生全員で修学旅行に行くことができました。長崎でボランティアガイドさんの話を熱心に聞く姿に、この学びをこれからの学習に少しでも生かしてほしいと強く思いました。また、地区の総合体育大会も無事、開催されました。これまで、あたりまえだった日常から一変したここ数年。少しずつ形を変えながらも、実施できることに感謝しなければなりません。一学期を振り返ると、その時々で、各学年に応じて精一杯学習をしてきました。収穫のあったこと、課題が残ったことそれぞれをしっかりと見直し、二学期につなげられるようにしたいと考えます。

あるプロテニスプレーヤーが、現役に復帰するかどうかで悩んでいたときに「勝てるかどうかを心配するよりも、負けるという覚悟ができていくかだ」と言われ、復帰を決意したそうです。復帰前は世界4位の实力者でした。その選手が一から出直すことの勇気は、負けを認める強さがあるかどうかだということです。



そんな世界のトップレベルの選手でも負けや失敗はつきものですから、私たちも、いろいろな失敗はあるものです。そして、一生懸命努力したのに、思うようにいかないこともよくあることです。私もそういう経験を嫌というほどしてきました。ですから失敗のつらさは、身にしみてわかります。だからこそ勝者の涙より、敗者の涙のほうが、胸をしめつけられます。しかし、その悲しみや悔しさの涙を絶望にぬらすか、「なにくそ」と次への躍進の力に代えるか、ここが重要なところ。失敗をくよくよしたって、結果は変わりません。また失敗を他人のせいにして、そこから逃げ出してしまったのでは、ますます事態を悪くするばかりです。失敗には失敗をするだけの原因があるのです。それをきちんと点検すれば、必ず次の道が開けます。発明王のエジソンは、何度も失敗したにもかかわらず、その原因を調べ、実験を繰り返しながら大発明を成功させたことは、よく知られています。

一学期が終わります。例えばテストの結果を先生から返してもらったとき、どこを間違えたのか、どこを理解していなかったのかを点検し、次に備えましたか。このような習慣をもっている人は、失敗を生かす手本です。点数だけにとらわれて、喜んだり、悲しむ人はいつも成績にむらがあり、本番でも本当の實力を発揮することが難しくなります。

また小さなミスでもそのままにしないことです。「こんなミスはたいしたことはない」と放っておくと、その積み重ねで、取り返しがつかないことになるのです。でも同じ失敗でも、最初から力不足であることがわかっていたり、日頃から怠けていた結果もあります。この場合は自分を謙虚に反省し、力をつける努力をしなければなりません。いずれにしても、人は成功したときより、失敗したときにどのような態度をとるかで、人間の評価が決まるともいわれています。

ころんだら、もう一度立ち上がって歩き出す人こそ、本当のチャレンジ精神をもった勇氣ある人だと思います。長い夏休み、家族とともに自分自身を振り返り、弱点の克服に努めてほしいと願います。よい夏休みを！

(参考：心に心棒を)